

農Bizカンパニー

片倉コープアグリ

プラ削減にペースト肥料

二段施肥で追肥不要

プラスチック削減や地域資源の有効活用など、農業分野でも環境への配慮が改めて求められている。肥料メーカー・片倉コープアグリ（東京都千代田区）の一條龍男肥料本部長に、これらに対応する肥料について聞いた。

——プラスチックの削減が大規模化する中、追肥が世界的に求められて減ることは考えにくい。だが、プラスチックの削減は、追肥の必要を減らすことにはつながる。追肥の必要を減らすことにはつながる。

農業分野では、水稲の元肥一発肥料など、プラスチックで被覆した緩効性肥料の被膜の海洋流出が問題視されている。一方、元肥一発肥料は追肥を省略でき、省力化には欠かせない。栽培面

積が大幅に減少する中、追肥が必要となる施肥体系に戻ることが考えにくい。だが、プラスチックの削減は、追肥の必要を減らすことにはつながる。追肥の必要を減らすことにはつながる。

すぐに代わりになる手段として、当社が販売するペースト肥料を使った二段施肥の普及を目指している。粘度のある液状

の肥料を、専用機械で田植えをしながら土中の上段・下段に分けて施用する技術だ。ゆっくりと溶け出し、肥料効果が長持ちする。

二段に分けることで根の成長とともに肥料成分を供給でき、追肥の必要もない。

——どれくらい普及していますか。

全国の経営面積の4%程度にとどまる。ペースト肥料自体は40年ほど前からあるが、二段施肥技術が開発される間に一発肥料が普及した。品種によっては肥料や価格は一発肥料と同等程度だが、専用機械の導入が必要で、買い替えもハードルになっている。

また、一発肥料はポタ

ン一つで散布できるように機械が進化している。

が、ペーストはレバー操作のアナログ式。機械は4社から販売されているが、ユーザーが少ないこともあって仕様がかわらず、「職人技」と言われることもある。これに対応し、品種ごとにどう操作するか案内するアプリを公開する予定だ。

——地域資源の活用にはどう取り組んでいますか。

全国20都県のJAなどと連携し、堆肥と化成肥料を組み合わせた複合肥料の開発を行っている。21銘柄を登録済みだ。肥料の高騰もあって注目されており、需要がある。既に地域にある資源を使った、手頃な価格の肥料が求められている。子会社では、JA全農ふくれんが収集する家畜ふん堆肥と福岡市が下水から回収したリンを組み合わせた肥料を販売し、人気を集めている。

会社概要

肥料の開発・製造販売を行う。2015年に片倉チッカリンとコープケミカルとの合併により発足。従業員数は単体635人。



プラスチック不使用のペースト肥料を薦める一條本部長（東京都千代田区で）